

研修会報告

平成 28 年 2 月 17 日

文責：血液部門長 菅原 新吾

血液部門研修会

研修会テーマ「形態観察力を磨く」

開催日時 平成 28 年 2 月 13 日（土）13：30～17：00

会場 東北大学医学部保健学科大講義室

- ・講演：「認定血液検査技師試験を受験して」
講師：東北大学病院検査部 佐々木 麻美 技師
- ・オリエンテーション「細胞のみかた」
- ・「形態カンファレンス（グループディスカッション）3 症例」

生涯教育点数 専門 20 点

参加者：会員参加者 17 名 講師 1 名 実務委員 5 名 計 23 名

内容

テーマを「形態観察力を磨く」として血液部門研修会を行った。今回は講演形式のみではなく形態カンファレンスとしてグループディスカッション形式で行った。また認定血液検査技師試験を受験し資格を取得した技師に実際の試験について話していただいた。

日本検査血液学会によると県内の認定血液検査技師取得者は全国的にはまだまだ少ない方である。血液検査分野に専従ではなく複数の分野を兼務されている人が多い中、少しでも血液分野のスキルアップ、ステップアップとして認定試験受験へのきっかけになればと企画した。認定試験の申請から受験まで、実際の試験のポイントについて講演いただき、これから受験する人、または受験を考えている人にとってかなり参考になる内容であった。今後も宮臨技血液部門としても、様々な形で認定試験の受験者をサポートできたらと思う。

「形態カンファレンス」では、骨髓像の観察経験が少ない人も多いためオリエンテーションで「細胞の見方」として事前に簡単なレクチャーを行った。細胞の見方についてはベークとして来年度別の機会でも行うことも考えている。グループディスカッションに用いた症例は、一昨年の日本検査血液学会学術集会の中で行った「初心者グループミーティング」と同等のものである。3つのグループに分け、データと細胞所見から各グループのリーダーを中心に症例について考えてまとめていただきグループごとに発表後、解説を行った。我々が日常業務で目にするデータと細胞から予想される疾患、そして確定診断のための追加検査を一連の流れで学べる形である。診断までのプロセスを学ぶことで、必要によっては臨床へ追加検査を提案したり、検査側からの意見を伝えたり、そういうスキルを身に着ける目的もあった。今回グループディスカッション形式で形態カンファレンスを行ったが、参加者が予想より少なかった。用意した症例は基本的なものであるが、ディスカ

セッション、発表の形式が敷居を高くした可能性は否定できず。血液検査分野と限らず、ディスカッションや意見を伝えることは必要なスキルであるため、多くの人に今回の形式のような研修会にも参加いただけるよう、今後の研修会の形式や開催案内を工夫したい。